波うちぎわの痛い虫

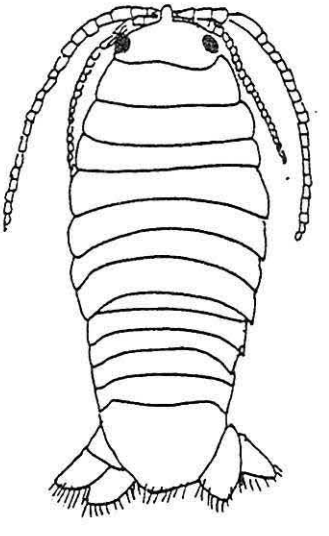
波打ちぎわにかみつき魔出現

夏休み、海水浴に出かける方も多いと思います。砂浜の生き物を観察するチャンスです。泳いだ後、波打ち際で休んでいると、何かが、あなたの足の上をはいまわったり、時にはかみついたりするかもしれません。あわてて、飛び起きても、その犯人を見つけることは難しいでしょう。そのはずです。犯人は、波とともに出てきて、素早く砂の間に逃げてしまったのです。

では、そのすばやい犯人をつかまえるにはどうしたら良いでしょう。波打ちぎわに30cmくらいの穴を掘り、海水が流れ込むようにします。波が押し寄せ、穴に海水が入ると、一時的に水たまりが出来ます。そこに大きさ１センチに満たない小さなエビのような虫が、泳ぎ出てきます。目の細かい網等ですくってみましょう。波が引く前に砂の中に姿を消します。下の絵のような虫が見つかることがあります。その名はヒメスナホリムシ。ダンゴムシやワラジムシに近い仲間です。外形も似ていますが、足の数も１４本で同じです。



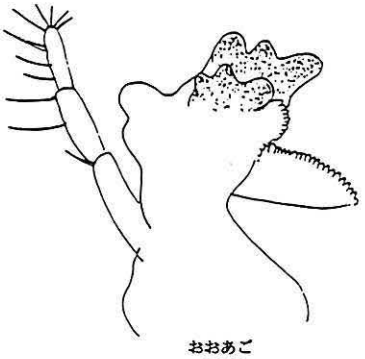
（こんな穴を掘る）



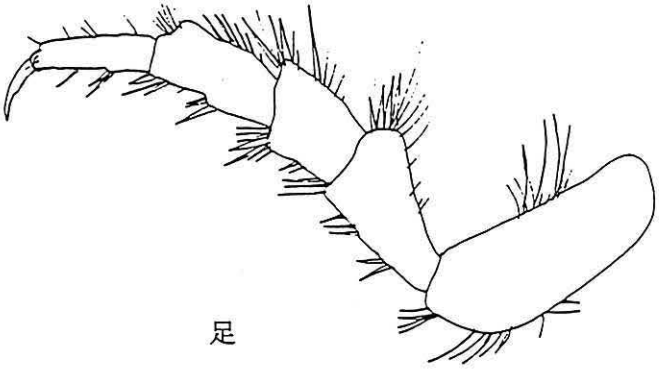
（ヒメスナホリムシ）

すばやく姿を消す秘密

砂の中にすばやく潜るには何か秘密があるはずです。スナホリムシの足の形を調べてみましょう。足は太く、すばやく砂を掘ることが出来ます。また、皮膚をかむのは、口のまわりに強い大顎（おおあご）を持っているためです。



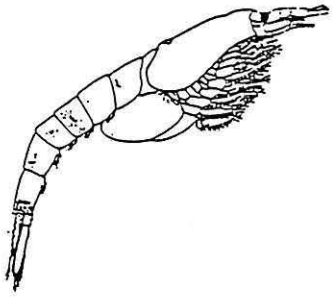
おおあご
大顎



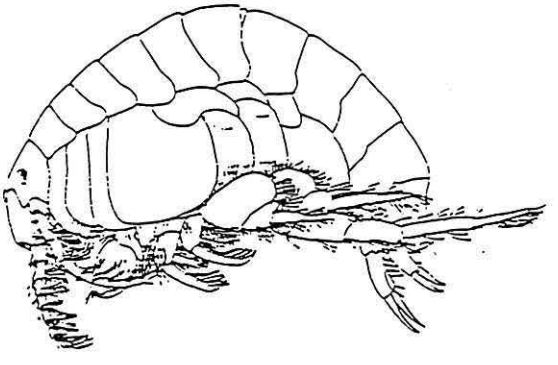
足

そのほかの仲間

場所によってはヒメスナホリムシがいないで、他の小さなエビ形の虫が見つかります。アミやナミノリソコエビなどが多いのですが、これは砂の粗さ波の強さなどによるのでしょう。これらの虫は皆、波打ち際にすんで、波で運ばれてくるゴミや動物の死体を食べてくれます。波うちぎわは酸素の多い環境なので、たまった海水で長い間、飼育するのは難しいことです。



アミの一種



ナミノリソコエビ

富山市科学文化センター
〒939富山市西中野町1-8-31 TEL(0764)91-2123
平成9年7月1日